Network & Footwork

メディアハウスA&S Vol.25

あけましておめでとうございます

A Happy New Year!

Bonne Année!

「2010年」に備える

先行きがはっきりしないまま、新しい年が始まりました。
「今日が見えないなら、明日を思い、今日一日はその準備のための一日にすることをかんがえてみましょう。
来年、2010年には、日本にとってエポックメイキングなできごとがいくつか待っています。

まず北の変化として、東北新幹線が新青森まで延伸される。東京ー新青森の所要時間は約3時間20分です。東北の人の悲願だった東北・上越新幹線の上野乗り入れから25年という節目の年に、本州の北から南まで新幹線で移動できるようになります。

一方、南に目を移すと、これは2011年の春になりますが、九州新幹線が博多まで延びる。博多と新鹿児島が最短１時間20分で結ばれます。九州も北から南まで新幹線で移動できるようになります。そのうえ博多駅と福岡空港は地下鉄に乗ればわずか５分ですから、アジアの主要都市と九州全体の結びつきは、さらに深まるかもしれません。この九州新幹線は山陽新幹線との相互乗り入れします。新大阪と熊本は３時間20分、新大阪と新鹿児島は３時間55分で移動可能です。本州の西半分から南九州まで鉄道の移動が現実的なのものへと変わります。両新幹線の延伸で北東北と首都圏、南九州と関西圏の心理的な距離がぐっと縮まることでしょう。

陸の移動に対して、空の移動も大きな変化があります。
羽田空港に新滑走路が完成し、羽田発着の国際便が大幅に増加する。正式な運行路線や路線の開始時期が決まるのは、これからですが、北京、香港をはじめとしたアジアの主要都市との直行便は、アジア地域の一部を東京から日帰り圏にすることでしょう。また早朝・深夜はロンドン・ヒースロー国際空港、パリ・シャルル・ドゴール国際空港への就航が決まっていますから、首都圏からアジアを初めとした世界への時間が縮まりそうです。一方の成田空港へのアクセスも便利になります。京成成田新高速鉄道の成田アクセスが開通し、時速160キロで日暮里ー空港第2ビルを36分で結びます。

ここまであげたのは、すべて交通手段の変化ですが、この変化は移動が便利になるということだけにとどまらず、人や物の移動が増え、交流が活発になることにより、やがて人々の生活や暮らし、さらには意識までをも変えていくことでしょう。

そう、そう、2010年には奈良で「平城遷都1300年祭」が行われます。日本の歴史を振り返るだけにとどまらず、いにしえからのシルクロードを通じたアジアとの結びつきの強さと、日本の国が遠くヨーロッパとも結びついていたことをあらためて感じ、考えるきっかけになるといいと思います。

こうしたできごとのいくつかは、きっと今年から話題になることでしょう。日本各地が近くなり、アジアや世界が近くなり、互いの交流が次の新しい段階に進むことによって、これまでの日本観、アジア観、世界観が変わる始まりとなる年、2010年。その年に向けて、あなたは今年どのような準備をしますか。

年頭所感

仕事柄、さまざまな組織で作られている資料を数多く目にする機会があるが、ここ数年とみに感じていることがあるので、そのことについて書こうと思います。

この十年間でさまざまな組織の中にネットワークが構築され、またネットワーク同士を結びつけることによって組織の外とつながり、さらに各家庭に至るまでネットワークがはり巡らされてきました。この十年間は社会にあまねくネットワークのインフラを整備した十年間ということができます。

こうしたネットワークがはりめぐされてみると、組織にとって次の課題が顕在化します。ほんとうにひとりひとりが考えたことや持っている知識、成果が十分に生かされているのだろうか、ということです。さまざまなところで作られた資料や説明をみると、十分伝わっていない場面にしばしば出くわします。資料を作成したひとりひとりに内容について聞いてみると、非常に有益なことを考えていたり、また自らの経験による直感から適切な答えにたどりついていることも少なくないのですが、そのことが表現から伝わってこないし、肝心なことが取り上げられていなかったりする。

ここに埋蔵金、眠れる宝の山があるのではないかと思います。しかも、この宝は膨大な投資も必要ないし、リスクも非常に少ない。なにしろ他のところから新たに持ってくるわけではなく、自らの足下に埋まっているのですから。

この宝を掘り起こし、組織内で流通させることにより、互いの成果物の共有はもとより、「集団知」の活用、昨今のことばで言うと「組織内でのクラウドソーシング（Crowd Sourcing）」により、組織全体の付加価値をいま以上に高めることが期待できます。

この実現のためには、まず集団知の活用という観点から考え、現在、持っているIT環境の再整備が必要となるでしょう。具体的には、セキュリティやコンプライアンス、知的所有権など管理する体制を作った上で、
（１）組織内の誰が何をしているのか、どんな情報を持っているのかがわかるようなディレクトリー
（２）ブログに相当するような業務日誌、報告書などひとりひとりが現在進行中の取り組みを記録し、作成した資料を共同で保存する仕組み
（３）さらにこれまであげたものすべてを横断的に検索できる手段
などです。

ここまでのことなら、すでに実現している組織や、現在のIT環境にそれほどの手間をかけずに手に入れることができるという組織も少なくないでしょう。

問題は、入れ物はできたけれど、そこに入れる肝心の情報が価値の低いものであれば十分な効果は期待できないことです。こうした取り組みを確実な成果に結びつけるためには、ひとりひとりの十分な情報リテラシーが不可欠となる。

そこの部分について自分が貢献していきたいと思っています（飯田英明）。

有限会社メディアハウスエイアンドエス
〒108-0071　東京都港区白金台3丁目16番10-709号
PHONE （03）3449-0785
FAX （03）3449-0736
m-hmail@nifty.com
www.m-h.co.jp

■取材ノートから

昨年取り組んだことを紹介し、この紙上で関係者のみなさまからいただいた多くのご好意とご協力に心から感謝もうしあげます。

その一部はすでに「創業精神の相続」（http://www.m-h.co.jp/sougyou）と「高橋明紀代ブログ」（http://blog.livedoor.jp/amane2）で取り上げましたが、取り上げていないものもありますので、まとめてご紹介します。

◎2008年4月発行
株式会社三幸社グループ様
http://www.sankosha-mfg.com

代表取締役・CEO　打越満幸様著
社長　打越裕介様発行

同社30周年記念『水が出るまで、井戸を掘れ～好きなものづくりで30年』出版で協力。
打越満幸CEOはクリーニング店向け機械の開発設計から生産、販売網の構築して、同社をこの分野のトップ企業に成長発展させました。現在販売網は国内だけでなく、アメリカ、アジア各国、ヨーロッパにも及んでいます（同上の「創業精神の相続」ホームページで紹介）

◎2008年12月発行
トキア企画株式会社
http://www.tokia.co.jp

代表取締役　徳永泰平様発行

『未来に託すチャレンジ』出版で協力。
本書は12社12人の中堅企業のトップインタビューによる各社の創業や事業継承のドラマを紹介。そのうち9人は父上からの継承、2人は創業者、1人は第三者としての継承です。取り上げた12社は地域、業種はさまざまです。また、経営者たちの年齢も60代から30代とバラエティに富んでいます。

この12社とその経営者の方々とは、（株）アガタ（田賀俊行）、（株）エフ商会（植村勉）、菊川製茶（株）（佐々木清士）、三正工業（株）（岸秀世司）、（株）JRCコーポレーション（高崎卓哉）、瀬下建設工業（株）（瀬下和夫）、龍江精工（株）（田中直樹）、（株）電器堂（加茂晴康）、(有)日神貴金属（上川一男）、（株）二葉写真製版/（株）二葉企画（小林博美）、山下商事（株）（山下亨）、吉野電化工業（株）（吉野寛治）です（敬称略）。
一方、この12人の経営者たちの最大の共通点は、逆境や厳しい環境を乗り越えた実績を持っています。そして、このすばらしい実績は、きっと次の新たな成長の道を拓くことでしょう。

◎2009年1月発行
（編集制作・印刷製本は2008年12月）
マツイフーズ株式会社 様
http://www.matsui-foods.co.jp

会長　松井幸次郎様著
代表取締役　松井利直様発行

『創業六十周年記念　幸せを願いつつ、牛の歩みのごとく』出版で協力。
松井幸次郎会長は戦争末期召集されるが、無事帰還し20代はじめで、故郷新潟県燕市で馬の仲買人として独立。馬の販売で得た信用をもとに、その後牛も扱い、業績を拡大させていきます。やがて、農家に機械が普及し始めると、ゼロから食肉の小売・卸への転換を図って軌道に乗せます。やがて、ブランド豚『越後もちぶた』と出会い、その販売会社として成長を続けています。昨年末、燕市近郊に新本社・工場を建設し、増大するニーズに対応する体制を構築しました。

◎2008年2月から
ボランティアで、映画『マリアのへそ』自主上映推進のサポーター

この映画はフィリピン・マニラ市の路上生活者マリア一家のドキュメンタリードラマです。昨年1月この映画の制作支援をされた株式会社高齢社（http://www.koureisha.co.jp/kaisha.html）の代表取締役社長上田研二氏と出会い、この映画を監督した野澤和之氏（http://blog.livedoor.jp/mnavel/）を紹介いただきました。野澤監督と劇場上映とは別に、全国で自主上映活動を推進しようと話し合いました。
まず、映画好きでブログを中心に情報発信で著名な友人、久米繊維工業株式会社の久米信行社長に相談。その結果、映画内容と関係が深いTシャツを活かそうと、同社で「マリアのへそ」公式Tシャツの製作が決定。自主上映の際、監督はじめ関係者や上映スタッフが着用し、会場で販売する方式を作りました。
また縁者の一人MG研修や多摩大学教授准教授の明賀義輝氏（http://net-ksk.cocolog-nifty.com/keiei/2008/02/post_f063.html）に大きな支援をいただき、各地の縁者に協力をお願いしました。その結果、9月下旬青森市弘前市の佐藤博子氏（http://www.babibu.com/）に上映を挙行していただき、野澤監督のトークに私も同行しました。高校生や中学生もたちも鑑賞し野澤監督と握手するなど、弘前市での上映は、監督が願った若い世代に観て欲しいという制作意図を実現した小さな、すてきな第一歩となりました。
昨年末に久米社長が「経営者会報ブログ」（http://kume.keikai.topblog.jp/blog/102/10012344.html）にて、トップでご紹介いただき、感激です。この活動は、上記の方々のご協力の他、多忙な息子にも支援を依頼しました。

地域の縁者とは、ITネットワークを中心とした活動になりますが、そこには上記のような顔の見える縁者を介してのつながり、信頼感がとても大きいことを改めて実感しました。

◇2009年の取り組み
これまで取り組んできた『創業精神の相続』を引き続き、取り組んで行きます。1社の出版という形式だけでなく、地域やグループとしての出版にも取り組んでいきます。また、近く同ホームページを大幅な更新します。
ブログには、私の生家（大田区でものづくり）の記録を新しくスタートする予定です。
『マリアのへそ』の自主上映活動は、2月熊本市での上映予定をはじめ、引き続き推進していきます。

ことしも、粘り強く、志を持って仕事をされて来た方々、あるいは現在もされている方々のお話をうかがい、出版やネットなどの媒体で情報発信をしていきます。
ことしもよろしくお願いいたします。

有限会社メディアハウスエイアンドエス
高橋明紀代

〒108-0071
東京都港区白金台3丁目16番10-709号
PHONE （03）3449-0785
FAX （03）3449-0736
m-haki@nifty.com

「創業精神の相続」
http://www.m-h.co.jp/sougyou
「高橋明紀代ブログ」
http://blog.livedoor.jp/amane2